

英語落語もこなす落語家

かつら し  
桂 かい 枝 さん



プロフィール

1969年、兵庫県尼崎市生れ。スポーツ大好き少年で高校時代に水球でインターハイ出場経験を持つ。大学卒業後の94年6月、五代目桂文枝に入門。初舞台は翌年3月。古典や創作落語のかたわら英語落語にも挑戦。98年から米国をはじめ9カ国での公演を成功させている。レギュラー番組にNHK教育テレビ「いまから出直し英語塾」、MBSラジオ「アングル金曜かわら版」ほか。受賞は03年なにわ芸術祭落語部門最優秀新人賞。04年咲くやこの花賞、NHK新人演芸大賞(落語部門大賞)など。



(2001年5月 ヲッハ上方 ヲッハホールでの英語落語会 / 写真提供:桂かい枝さん)

# 顔売って、名売って お客さんを呼べる噺家に

「僕ね、初舞台の当日まで、芸名が無かったです。で、その日の朝、師匠に、今から行かしてもらいます、言うたら、『今日が噺家としての始まり、開始や。ほな "かい枝"にしとき』言うて、2時間前ですよ(笑)』と初舞台の思い出を語るの、落語家の桂かい枝さん。師匠とは、桂三枝さんや、桂小枝さん、桂あやめさんらを育てた桂文枝さんだ。

デビューして9年目。古典落語や創作落語はもちろんだが、かい枝さんの人気を支えている持ち芸に、英語落語がある。

英語落語の誘いがかったのは、1997年。大阪難波の上方演芸資料館「ヲッハ上方」で行われた、98年からスタートする英語落語海外公演のための「旗揚げ公演」への参加だった。翌年、初の海外公演として同行したのが、国際交流基金の援助を受けたアメリカ公演。コロラド、カリフォルニア両州を訪れ、日本文化紹介の一環として古典落語を披露している。

こうした海外公演は現在も続いており、訪問国はカナダやシンガポール、

オーストラリアなど9カ国、公演数も180を超えるほどだ。

ところで、英語でテレビのレッスン番組にレギュラー出演するほどの実力派だが、「力をつけたのは、おもに中学生時代」という。「道具として使える英語を、というのが先生のやり方。ネイティブのテープに合わせて、ひたすら音読する厳しい授業」だったが、「テープの合間にしてくれる、海外での体験話が楽しくて英語がますます好きになり、海外への夢も膨らませたものです」。

一方、お笑いに興味を持ち始めたのは、「目立ちたがり屋だった子どものころ」から。高崎市立高崎経済大学(群馬県)在学中も、「漫才のネタを自作して友人と学園祭などでお笑いを振りまいていた」そうだ。「結局、大学4年にホントにやりたい事を考えて」お笑いの道を選び、文枝師匠の門を叩くのである。

英語落語 やりがいもあり、オリジナリティーもある分野だが、悩みが無いわけではない。「日本語の落語も、ろくに出来ていない。英語落語のネタと、日本

語落語のネタ数とあんまり変わらんのやから」。あるいは「やっぱり噺家は、日本のお客さんを笑わせてナンボ」という、ごく当たり前の考えの中での葛藤がある。

そうしたなか、先日収録が行われた「NHK新人演芸大賞」で、落語部門の大賞に輝いた。ちなみに、こちらは日本語。放映予定は12月12日午後3時からだが、「良かったです。髪の毛があるうちに新人賞取れて(笑)』と喜びを隠さない。それは、「師匠がよく言いやる『噺家は、落語を大事にして根を張れ』ということに答える、年齢的にも最後のチャンスだった」からでもある。

ともかく、噺家としての根っこの部分への足がかが先出来た。05年9月にインド公演が決まっている英語落語は、「より磨きをかけライブワークにまで持ち込めれば」と思う。

「05年は、一般の人に噺家としての名前と顔が売れる1年にしたいです」かい枝さんの、酉年に寄せる「かいし宣言」である。テケテン、テケテン――。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)